

斧琴草

作詞 田中青滋

作曲 清元榮壽郎

花をはつす 一両枝 彼のれきけんが山深く

姿わらへに 若草の 春いくかえり 廻りめぐりて廻る日の

七百歳の 秋となり

天のこんずや笄の 大盃に なみなみと

よい酔い心 齢を延ぶる 茜を顔に恥ずかしや

その故事を 菊の宴 我が朝にても これをとり

よろこび重ぬる節にして 秋風樂と奏で舞う

加賀のお菊は評判娘 顔は白菊 紅菊つけて

よい子のよい子の 良い娘の 小菊

とりなりしゃんと 菊流し 咲いて見事な 扇車の

くるくる車菊 重ね菊 一重二重三重四重七重

やんや八重菊

夜の灯 夜の雨 となり座敷の爪弾きに

つい菊菱や 菊重ね

さてこの花を愛する人 東離が元に植えおきて

日毎に心なぐさむむる

斧を手にして晴れては樵 又雨の日は琴を友とし

斧と琴と菊を合わせて

良きこと聞くは よろず目出度し。